

平成 30 年 9 月 25 日現在

機関番号：22101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26293473

研究課題名(和文) 日本版性暴力被害者支援チーム研修開発と看護師の調整能力促進

研究課題名(英文) the development of Japanese sexual assault response team and promotion for nurse's ability to adjust

研究代表者

加納 尚美 (Kano, Naomi)

茨城県立医療大学・保健医療学部・教授

研究者番号：40202858

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円

研究成果の概要(和文)：性暴力被害直後の急性期に看護師は各関連機関と連携し、被害者のケアを行うことが求められる。本研究では、性暴力被害者支援体制を構築するために、米国で実績を挙げているSART研修の日本版の開発を行い、次に日本版SART研修を実施と評価を行うことであった。

研究期間内に、米国の性暴力被害者対応チームの実践および研修担当者を4名招聘し、同時通訳にて2日間の研修会を開催し、対象者は日本での被害者支援経験者として約80名の多職種が参加した。次に日本版研修を開発し、国内数か所合計9日間、のべ約250名の参加者を得た。研修直後のアンケート調査から今後地域でのSART研修の必要性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：Nurses in the acute phase immediately after the sexual violence victims are in cooperation with each relevant institution, it is required to perform a victim of care. In this research, in order to build a support system for victims of sexual violence, it was to develop the Japanese version of the SART training which has proven in the US, then to implement and evaluate the Japanese version SART training. In the first, four people participating in the practice of the US sexual victims response team and person in charge of training were invited to hold a two-day workshop with simultaneous interpretation, and the subjects as experienced victims in Japan. Approximately 80 multi-occupation occupations participated. Next, we developed a Japanese version training, and got about 250 people in total for 9 days in total at several locations in Japan. From the questionnaire survey after the training, it is expected that SART training will be expanded in each region in the future.

研究分野：ウイメンズヘルス看護学

キーワード：性暴力 対応チーム 看護師 連携 協働 被害者 支援 地域

1. 研究開始当初の背景

【国際的状況】

世界保健機構 (WHO) では、性暴力被害を含むあらゆる種類の暴力は人の健康を脅かすものとして、その発生メカニズムの解明、危機介入のあり方、予防の重要性を提唱している。特に性暴力被害については、性に関する羞恥心や本人の不注意等に起因するなど誤った理解が社会に蔓延する中、被害実態が可視化されにくい。そのため WHO は、様々な成功例を提示し、各国や地域レベルでの対応を喚起している。

成功例の一つとして、米国での実践成果をみると 1970 年代に性暴力被害について社会認知が図られ、多くの草の根運動が被害者支援に取り組み始めた。次に各州レベルでの関係団体を集めた協議会が発足し、やがて被害者支援に関する法律改正や法整備を行ってきた。これらの動きに呼応するように各種大規模な実態調査が行われてきた。性暴力被害者は少なくない上、多くのライフイベントの中でも最も心的外傷を発症し易く、被害後の人生に与える影響が大きい。被害者は、事件後できるだけすみやかに、適切なケアと各種サポートが得られた場合、心的外傷の発症率を軽減でき、回復へのプロセスを促進できる。また、支援体制の充実により、警察への報告件数、起訴率が増加し、結果的に性犯罪の抑制につながると報告されている。

一方、被害者支援には、専門家間(司法、警察、医療、アドボケート) が被害者支援に向け SART を作り対応することと、被害発生直後からのケア、証拠採取、他の支援機関との調整役割を担う性暴力被害支援看護師 (Sexual Assault Nurse Examiner、以降 SANE と略す) が活躍している。2013

においては米国およびカナダでは SART と SANE による実践プログラムが 1,000 ヶ所を超えて実施されている。

【日本国内の状況】

日本では、1990 年代後半以降、性暴力被害への対応について問題提起がされ、2000 年に入り、関連の法律 (配偶者からの暴力防止および被害者の保護に関する法律、犯罪被害者等基本法など) が制定され行政レベルでの対策が開始されてきている。しかしながら、諸外国で法制化されてきている包括的な性暴力被害者支援に関する法制化および支援体制は確立していない。

一方で、2011 年に大阪の民間団体が性暴力被害者ネットワークと医療対応部門を立ち上げ、年を増すごとに受け入れの被害者数は増加し、実態の深刻さ、潜在的ニーズの拡大を提示している。また、2012 年には東京の民間団体が同様のネットワークを立ち上げ、活動を開始している。日本の警察庁は韓国で成功している被害者を 1 ヶ所で総合的に対応できる施設として愛知県の一施設を立ち上げたことを皮切りに、各地域での設置を働きかけている。

SANE については特定非営利活動法人女性の安全と支援教育センターが 2000 年より看護師を対象に研修事業を開始し、2013 年末で 300 名近い SANE を養成している。本研究の応募者たちはこの SANE の研修に係りかつ教材を開発し、急性期の実践モデル構築に向けた研究を行ってきた。現在、日本の SANE は米国のような実践はしていなく、今後 SANE が役割を発揮するためにも、各地域で SART 活動の推進が求められている。内閣府 ~ http://www8.cao.go.jp/hanzai/kohyo/shien_tebiki/index.2013/10/01.

2. 研究の目的

海外での性暴力被害者支援においては、医療、警察、司法、福祉、被害者へのアドボケート組織等が相互の理解の基にネットワークを作る「性暴力対応チーム (Sexual Assault Response Team: SART)」の充実が、被害直後から長期のフォローアップ、被害の予防活動において実績をあげている。その中で、被害直後の急性期に対応できる看護師は、各関連機関と連携し、調整能力を発揮する事が要となる。

そこで、本研究では3つの目的を遂行する。第1に、米国で実績を挙げているSART研修の日本版の開発を行う。第2に、多職種間に対してSART研修を実施と評価を行う。第3に、SARTの中での看護師の調整能力の向上を図る。

3. 研究の方法

【性暴力対応チーム：SART研修の開発】

多職種連携は、医療のみならず多くの分野で取り込まれ、一定の目標のために多職種がともに学びあう事を通じて協力していく。1970年代後半に米国で始まった「SART」モデルは、強姦救援センターのアドボケート、看護師や医師を含む医療職、警察官、鑑識官が定期的な会合、合同の勉強会、地域の事情に合わせたプロトコールを作り被害者支援にあたるものである。SARTを運営していくためには、関係者に対するSART研修が必要とされる。今回の計画にあたり、米国ミネアポリスで1977年にSARTを作り、現在も国際的にもSANEおよびSARTの普及、継続に尽力されているLinda Ledray博士の了解を得て、SART研修内容を日本語に翻訳を行う。

また、具体的なSART研修内容は、Ledray

博士の研修チームを招聘し、日本で講演会を企画し、講演録の作成、日本の関係者との議論を基に日本版のSART研修プログラム(講師メンバー、教材)を開発する。Ledray博士の主な練習内容とメンバーは以下である。

<研修内容>

法執行による被害者面接の理解、強姦救援センターの取り組みと役割、犯罪被害捜査、被害者への法医学検査、被害が疑われる性暴力被害者への面接、裁判の過程、多職種協働のため方略等およびマニュアルの紹介を行う。

<研修講師>

Linda Ledray (SANE-SART 資源センター長)、James Markey (元フェニックス警察刑事)、Patti Powers (ヤキマワシントンの検事)、Misty Marra (西バージニア州法医学研究施設専門官)

【SART研修の実施と評価】

全国4か所程度にて、多職種間に対してSART研修を実施と評価を行う。各地域でのSART研修では、SANE研修を修了した看護師の参加を募り、研修生の募集、研修遂行、研修後のネットワーク作り等を通じて調整能力の向上を図る。これらの研修の実施と評価を基に、全国に波及可能な日本版のSART研修プログラムとする。

国際的にも評価の高い米国のSART研修チーム(Ledrayチーム)の資料の翻訳、日本での講演会等を通じて、日本版SART研修プログラムを開発し、全国4か所程度で実施評価する。その際にSARTメンバーの中核となり得るSANE研修している看護師の参加を図り、SANEの調整能力の促進を記述す

る。これらを通じて、性暴力被害者支援活動における SART という概念・内容についての啓発、および各地域で SART 作りを図る。また、一般向けおよび専門職向けの教材を作成し、社会全体への SART プログラムの啓発・普及の一助とする。

4 . 研究成果

研究期間内に、米国の性暴力被害者対応チームの実践および研修担当者を 4 名招聘し、同時通訳にて 2 日間の研修会を開催し、対象者は日本での被害者支援経験者として約 80 名の多職種が参加した。次に日本版研修を開発し、国内数か所で合計 9 日間、のべ約 250 名の参加者を得た。研修直後のアンケート調査から今後地域での SART 研修の必要性が示唆された。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

1.三隅 順子, 山本 潤, 加納 尚美, 米山 奈奈子, 山田 典子, 家吉 望み:日本の SANE 研修講座の修了者における実態調査 1~11 期までの研修修了者の背景と研修講座の評価、及び SANE としての活動における課題、日本フォレンジック看護学会誌 (2188-8493)2 巻 2 号 Page83-91(2016.06)

2.加納尚美, 家吉望み, 金澤悠喜、英国におけるフォレンジック看護学の動向、日本フォレンジック看護学会誌第 3 巻 2 号 Page53-55(2017)

[学会発表](計 4 件)

1.家吉 望み, 加納 尚美:性暴力被害者支援看護師のプログラムと役割に関する文献検討、日本フォレンジック看護学会誌, 1 巻 1;2014.08)

2. 加納 尚美, 米山 奈奈子, 家吉 望み, 井筒 理江, 大屋 夕希子, 梶原 祥子, 長江 美代子, 藤田 景子, 柳井 圭子, 山田 典子:暴力と健康に関する課題とフォレンジック看護の実践について考える、日本看護科学学会学術集会講演集 34 回;225(2014.11)

3. 加納 尚美, 米山 奈奈子, 李 節子, 山田 典子, 三隅 順子, 家吉 望み, 藤田 景子, 長江 美代子, 山波 真理, 土居岸 悠奈:性暴力対応チーム研修の評価、日本フォレンジック看護学会誌, 2 巻 1; 15-16(2015.09)

4. 加納尚美, 長江美代子, 李節子, 藤田景子, 三隅順子, 山田典子:性暴力対応チーム基礎および応用研修の評価、日本フォレンジック看護学会誌, 第 4 号 1 号;42(2017)

5. 加納尚美, 米山奈奈子, 家吉望み, 山波真理, 土居岸悠奈:性暴力対応チーム基礎研修の評価、日本フォレンジック看護学会誌, 第 4 号 1 号;43(2017)

[図書](計 1 件)

加納尚美、李節子、家吉望み:フォレンジック看護 性暴力被害者支援の基本から実践

まで、医歯薬出版、2016 年

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 件）

〔その他〕

ホームページ等 Jafn(2014-2016 年度)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

加納 尚美 (Kano, Naomi)
茨城県立医療大学・保健医療学部・教授
研究者番号：40202858

(2)研究分担者

家吉 望み (Ieyoshi, Nozomi)
東京有明医療大学・看護学部・講師
研究者番号：00582248

米山奈奈子 (Yoneyama, Nanako)
秋田大学・医学系研究科・教授
研究者番号：20276877

長江美代子 (Nagae, Miyoko)
日本福祉大学・看護学部・教授
研究者番号：40418869

李 節子 (Ri, Setsuko)
長崎県立大学・看護栄養学部・教授
研究者番号：30259072

三隅 順子 (Junko, Misumi)
東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究
科・講師
研究者番号：80282755

藤田 景子 (Keiko, Fujita)
静岡県立大学・保健学系・教授
研究者番号：60587418

山波 真理 (Yamanami, Mari)
茨城県立医療大学・保健医療学部・助教
研究者番号：80282755

土居岸悠奈 (Digishi, Yuna)
茨城県立医療大学・保健医療学部・嘱託助手
研究者番号：00736853

山田 典子 (Yamada, Noriko)
日本赤十字秋田看護大学・看護学部・教授
研究者番号：10320863